

# 平成27年度「授業改善プラン」

(学力調査、生徒による授業アンケート等を基に)

教科名 国語

## 現状分析と課題

- ・全国学力調査(第3学年)の結果より、東京都、全国の平均正答率に比べすべてに関して下回っている。特に「書くこと」の正答率が65%ほどと苦手であることがわかる。特に作文の練習、文章表現の練習を強化する必要があると思われる。
- ・東京都学力調査(第2学年)の結果より、「関心・意欲・態度」の観点は東京都よりも上回っている。その他の観点については東京都よりも下回っている。特に「言語」の観点で11.0ポイント下回っているのは深刻な課題。

## 授業改善の重点

- ・国語の授業では主に「関心・意欲・態度」について強化するような授業の工夫をすすめる。生徒が興味をもつように授業の導入を工夫したり、学習のめあてを明確にして授業に取り組ませたりする。
- ・「書くこと」の活動の強化として、文章を読んだあとに感想を書いたり課題作文を書く訓練をしたりして書く力を伸ばしていく。文章の要約をさせることで、要点をまとめて文章表現できる力を養っていく。
- ・「言語」活動の強化として、漢字テストや文法事項の暗記、古典の文章の暗記などをさらに充実させていく。また、反復練習させることで、知識の定着を図っていく。
- ・読書指導を充実させ、国語への関心や読む力の強化につなげていく。本を読むことが好きになるような工夫をしていく。

教科名 社会

## 現状分析と課題

- ・「説明が分かりやすい」という質問に「よくあてはまる」という評価が8割におよぶが板書や、プリントについては60%台に落ちる。小学校時代に比べ社会が好きになったという回答は合計87%だが、小学校時代に比べ得意になったという回答は合計76%に落ちる。(1学年)
- ・授業が分かりやすいという生徒が多いのにも関わらず学力調査等における平均点が低い。(2学年)

## 授業改善の重点

- ・ノートまとめなど自分で調べる学習の意義を感じている生徒が多く、意欲的になっている。「説明中心の授業」や、「板書を写す授業」から「自分で調べ、まとめる授業」を多くするようにシフトしていく。
- ・小テストや、ノート作りを評価することによって「これをやればできる。」という感触を持てる授業を行うとともに、資料の読み取りなど都立高校入試問題に対応できる授業を行う。(2学年)

## 教科名 数学

### 現状分析と課題

- ・全国学力調査(第3学年)の結果より「主として知識」の分野では東京都及び江戸川区の平均を下回ってしまっている。また「主として活用」の分野では東京都の平均を若干下回るものの、江戸川区の平均よりは上回っている。
  - ・東京都学力調査(第2学年)の結果より、全体的に都平均を下回っているが、関心・意欲・態度や技能の観点では平均並みをとっている。「取り出す力」と「読み取る力」など、読解力が不足している。
  - ・生徒アンケートでは教師の熱意、説明・板書の分かりやすさ等に高評価が出ている。
  - ・習熟度別授業が始まり、能力及び本人の希望を基にクラス分けを実施しているが、より効果的にクラスを展開していくことが課題である。
- 以上より数学の授業への取り組み、態度等は概ねよく、このまま指導を続けていきたい。但し授業中に学習したことを定着させるための反復練習(家庭学習)が不足していることがわかる。

### 授業改善の重点

- ・生徒が集中できる環境を現在通り続けていきたい。そのためにも授業規律を守らせたい。
- ・一番の課題は家庭学習の定着化である。せっかく意欲的に理解した内容も復習の不足のため定着せず、そのため理解不足から授業への取り組みが消極的になっている生徒もいることは否めない。宿題の出し方、点検の仕方を工夫するとともに学年、学校全体として家庭学習の習慣化を図っていく。
- ・基礎学力の定着が、授業での理解度の深化につながることを考えて、補習学習も実施している。
- ・計算力強化に向けて、学年別に「計算コンテスト」を実施し、計算力に自信をつけさせ、授業への意識を高める取り組みも行っている。

## 教科名 理科

### 現状分析と課題

- ・学力調査の結果から、全体的にとの平均より下回っている。特に「技能」が際立っている。実験や実習に積極的に取り組み、考察や発表を行い、科学的思考力や発表力を向上させることが課題である。
- ・理科に対する関心はあるが、集中して聴く姿勢が身に付いておらず、正確な技能や知識理解を習得できない生徒が多い。毎日の授業に集中して取り組ませることが課題である。

### 授業改善の重点

- ・実験室で集中力を高めるよう工夫し、正確な技能と知識を定着させる。
- ・実験前の予想、実験後の考察に時間をかけ、科学的に物事を考える力を身に付けさせる。また、予想や結果、考察を発表させたり、班で考えることで言語活動を行っていく。
- ・知識の定着をはかるため、授業内での練習問題や小テストを行い、家庭学習の習慣づけを行っていく。

## 現状分析と課題

(学力調査、生徒による授業アンケート等を基に)

1. チャイム着席が徹底できていない。授業開始1分前よりビンゴシートをうめるよう指導しているが、まだそれができていない生徒が数名いるので、徹底させる必要がある。
2. 基礎力の定着していない生徒が多い。英単語スペリングコンテストを継続させながら、まず基本単語を習得させる必要がある。
3. また、放課後の補習等でそうした生徒の基礎力を付けていく必要がある。

## 授業改善の重点

1. 1分前着席の徹底。開始1分前にビンゴをうめるような声かけを引き続き行っていく。
2. 夏休み明けの2学期、冬休み明けの3学期のスペリングコンテストを3学年で統一して行っていくことで、語彙力を定着させ、学力が伴わない生徒の基礎学力の底上げを行う。
3. 自己表現をつけるため全体の前での発表(スピーチ)を継続させていく。
4. Listening, Speaking, Reading, Writing の4技能がバランスよく伸びるように3年間を見通し、指導していく。

